



令和元年12月8日 自主公演記念(中央・加戸守行氏)

ごあいさつ

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団
常務理事 田中英機

巻頭ごあいさつの加戸守行理事長には、さる3月21日病を得て急逝されました(詳細本文)。突然の訃報に財団職員、舞踊団一同驚きと哀しみに茫然自失、ひたすら四国松山の方に向かって合掌するばかりでありました。

昨年師走の舞踊団スタジオ公演にお立ち合いくださり、演目のひとつ秋田「西馬音内の盆踊」初演をご覧になって「不思議な魅力をもった好い踊りだね」と、深い関心を示されました。さらに続けて、取材の旅をし新しいレパートリーを増やしていく必要を説かれ、また舞踊団次世代の若手新人育成の宿題も急ぎたいねと、念をおされました。

いまに思えば、加戸理事長のご遺言のように聞こえてきますが、しかし、考えてみればこれは舞踊団の流祖 黛 節子の思想の具現化でもありました。

懇談のお別れ際に、来年春先きの財団定期役員会の予定日5月8日を決めていただいたおり、独り言のように「この日の上京は、家内と一緒にいるかもしれないな」と。この折すでに、加戸先生はお体に大きな故障をおもちであったことを、私たちはまったく誰も存じませんでした。ご夫妻でご上京なら歌舞伎でもいかがですか、お席をご用意しますと申し上げると、「うーん、歌舞伎ね」と呟くように、笑顔をみせられました。この一言この微笑が、最期となりました。

加戸守行先生の当財団への篤いお志に感謝の念を捧げ、御礼を申し上げて、ご冥福をお祈りいたします。

加戸守行理事長追悼



昭和32年 3月 東京大学卒業
 昭和32年 4月 文部省（現文部科学省）入省
 昭和41年 4月 文部省著作権課課長補佐（著作権法従事）
 昭和45年 7月 （昭和43年文化庁発足）文化庁著作権課長
 昭和58年 6月 文化庁文化部長
 昭和58年 10月 文化庁次長（当財団発足指導助言）
 昭和61年 6月 文部省体育局長
 同年 9月 文部省教育助成局長
 昭和63年 6月 文部省大臣官房長
 平成元年 7月 公立学校共済組合理事長
 平成4年 7月 日本芸術文化振興会（国立劇場）理事長
 平成7年 11月 日本音楽著作権協会理事
 平成8年 5月 当財団理事に就任
 平成11年 1月 愛媛県知事就任（3期）
 平成23年 3月 当財団理事長に就任
 平成23年度より大阪国際大学客員教授就任
 平成24年 11月 旭日重光章叙勲
 平成25年 1月 教育再生実行会議委員就任
 令和2年 3月 21日 骨髄異形成症候群のため死去（享年85）
 同日付をもって正四位に叙される。

追慕

理事長加戸守行先生に令和元年師走8日の舞踊団アトリエ公演をご覧いただけたのがせめてもの慰め、何よりの幸いでした。
 さる5月、先生の奥様道子夫人からご丁寧なお手紙を頂戴いたしました。それによりますと、昨年4月、高齢による血液の病を得て余命半年から一年半と医師の診断を受けられていた由。その大事に気づくことなく、心遣いのまったく行き届かないでしまった不明と迂闊をただ恥じいるばかりでございました。
 さる3月21日、ご自身もお歌いになった師走の第九・合唱「歓喜」の歌声につつまれ、ご家族に抱きしめられて逝去されました。ご葬儀は先生のご遺志により無宗教の家族葬で相営まれ、後日「お別れの会」が催されることとなり、今愛媛県知事村様を中心にその計画が進められております。
 加戸先生は「以前から自分らしい墓石をという想いを持っていた」とし、モニュメント作品を見るような墓石（下写真）を用意され、墓碑銘には道子夫人に心を寄せて「愛と心」が刻まれ「ここは永久に共に暮らす新居」と呼ばれた。加戸先生のこれぞライフ・インデキスといえる銘文です。敬意と感謝を深くし 合掌 田中英機



AbemaTVの生放送直前の加戸守行さん。本番中も自然体だった＝3月12日、東京・六本木
 3月21日死去（骨髄異形成症候群） 85歳

著作権法を起草した元文部官僚 加戸守行さん

文部官僚として、1970年に創設された著作権法を起草した。著書「著作権法と著作権」は9度の改訂を重ねたロングセラー。いわば「著作権法の生き字引」だった。事務次官候補だったが、リクルート事件で「じめ」をつけ、文部省（現文部科学省）官房長を辞任した。1995年に日本音楽著作権協会（JASRAC）の理事長に就任した。外から見たら「天下り」だが、当時のJASRACは本部事務所の移転をめぐって内紛が起き、訴訟沙汰になっていた。右翼の街宣車が本部や自宅にも来た。訴訟で和解を受け入れ、事態の収拾を急いだ。歌を愛した。三波春夫の「雪の渡り鳥」を編み笠にかぶるといった股流風衣装に著書で感づいた。「おちゃめだった」と後石通夫理事長（89）は惜しむ。90年から3期、愛媛県知事を務めた。保守政治家としての姿勢を異色、教科書の採択をめぐる「一介」との批判も浴び

文化のために 信念の人

た。一方で、秘書を務めた土居忠博さん（81）は「心の機軸がわかる人だった」と振り返る。近くに来た際に土居さんの奥家に立ち寄り、母親に「土居君には苦勞をかけています」と声をかけてくれたという。
 3月12日、私はネット配信のAbemaTVで共演した。JASRACをめぐる特集、音楽教室での演奏から著作権料を徴収する方針を語った判決を加戸さんは「当然」と言い切った。「全文の通常の文意から離れた判決」と批判した私と立場を逆だったが、著作権の保護を高めることが文化の発展につながるという主張は一貫していた。この日、一緒に食事をした。加計学園問題をめぐる国会の参考人としての発言について、「首相擁護と批判されたけど実は……」と、「岩盤規制」「族議員」の問題を議論し共に語っていた。知性を養い、心をつたかきを持った信念の人だった（赤田廣和）



「道後聖墓園」
 愛媛県松山市山田町乙 229

在任中の主要活動歴

平成23年 3月 世界舞踊祭2011 参加 国立劇場小ホールにて
 7月 2011アジア民族舞踊交流会 開催：韓国舞踊団招聘
 平成24年 3月 世界舞踊祭2012 参加
 7月 2012アジア民族舞踊交流会 開催：中国・韓国舞踊団招聘
 11月 世界舞踊祭 参加
 12月 鳳仙功舞踊フェスティバル（日中朝舞踊交流会）参加
 平成25年 5月 訪マレーシア サワラク村「ワールドハーベストフェスティバル」参加
 7月 2013アジア民族舞踊交流会 開催
 平成26年 7月 2014アジア民族舞踊交流会 開催：韓国・マレーシア舞踊団招聘
 10月 自主公演「コラボデ黛 in 黛スタジオ vol.1」
 「民族舞踊と朗読の夕べ」開催 黛アートサロンにて
 平成27年 1月 世界舞踊祭 参加 赤坂区民センター区民ホールにて
 10月 2015アジア民族舞踊交流会 開催：韓国・インド舞踊団招聘
 10月 黛民族舞踊文化財団 設立30周年記念の会開催
 平成28年 7月 「The 22nd ChangMu Performing Arts Festival（第22回創舞国際芸術フェスティバル）」参加 韓国にて
 12月 自主公演「コラボデ黛 in 黛スタジオ vol.2」
 日本民族舞踊の流れ～大陸から大和へ～開催 黛アートサロンにて
 平成29年 7月 日本民俗芸能協会 創立45周年記念公演 参加 国立劇場小劇場にて
 10月 黛節子二十三回忌追福法要
 12月 自主公演「コラボデ黛 in 黛スタジオ vol.3 月雪花～ピアノで踊る民俗詩～」
 平成30年 1月 2018世界舞踊祭 参加
 7月 東京・荻窪に「黛節子旧居の地」記念碑建立
 12月 自主公演「コラボデ黛 in 黛スタジオ vol.4 黛節子生誕百周年記念 火を祀り水に祈る 生花とのコラボレーション」開催
 令和元年 8月 秋田西馬音内盆踊り参加
 12月 自主公演「コラボデ黛 in 黛スタジオ vol.5 流れる時とのコラボ～盆の精霊への祈り、豊穡の願い、未来への架け橋～開催



2014(平成26年)アジア民族舞踊交流会 京都芸術劇場 春秋座にて

令和元年 12月7・8日 自主公演 コラボデ黛in黛スタジオvol.5

流れる時とのコラボ

盆の精霊への祈り、豊穣の願い、未来への架け橋

会 場 黛アート・サロン
ゲスト俳優 角間 進 宇井 源秀 三嶋 亮太
企画・演出 平出 圭 (黛 圭)
構成・振付 黛 琉美
出 演 黛民族舞踊団
黛 真也 黛 李穂 黛 圭
伊藤 みつ子 花柳 翁麗 小山 羊子
武田 静子 キャサリン・チェン
野村 陽子

賛助出演

五月女 嬌花 五月女 若奈 五月女 華舟

スタッフ

照 明 小保内 陽子 (株)エクサート松崎
舞台監督 堀井 基宏
衣 裳 的場 花枝
ヘアメイク 半沢 幸子
撮 影 宮川 舞子

コラボデ黛in黛スタジオ vol.5

流れる時とのコラボ

盆の精霊への祈り、
豊穣の願い、
未来への架け橋

西馬音内盆踊
郡上踊春駒
大黒舞
麦屋節
田植踊り他

企画・演出 黛 圭
構成・振付 黛 琉美
出 演 角間 進 宇井 源秀 三嶋 亮太
主 黛 民族舞踊文化財団

令和元年
追加公演 12月8日(日) 開演:午後5時
発売期 12月7日(土) 午後7時 12月8日(日) 午後2時
開場: 各回30分前

【会 場】黛アート・サロン(黛ビル4階)
(最寄駅:地下鉄 赤取見駅・永田町駅)

【入場料】1500円(自由席)各回定員50名

【問合せ先】黛民族舞踊文化財団事務局 TEL: 03-3583-3633
FAX: 03-3583-3639 e-mail: info@mayuzumi.or.jp

写真はイメージです。実際の演目とは異なる場合があります

夏ともなると日本各地で盛んに見られる盆踊り—BON-DANCE—には、いくつかの系統がありますが、私たちは特に、祖先に対する感謝と供養の踊り、民俗伝承の盆踊りに心を寄せます。母の、その母の、そのまた母の着物を集め仕立てた端縫衣裳を身にまとい、篝火の明かりの中で踊る秋田の「西馬音内盆踊」などには、そういった思いが特に強く感じられるものです。

私たちの師であり舞踊団の生みの親、母でもある黛 節子先生の生誕百年に際し、先生の遺された着物、踊衣裳のいくつかを端縫いの形で復元し、節子先生の魂とともに踊らせていただく事にいたしました。

プログラム一つ目のパートは【過去】、お盆に迎えた精霊さまの供養と祈りの踊を、二つ目は【現在】、私たちの命の源、お米や麦を作り豊年を願う労作の踊を、そしてもう一つ【未来】のパートとして、忘れてはいけない日本民族の心、人と人の繋がりを大切にする気持ち、次世代への願いを込めて踊ります。「コラボデ黛 黛スタジオ」2019年(令和元年)は、<流れゆく時>と向き合い、祈りを繋ぐプログラムです。

黛 圭

一、プロローグ 西馬音内盆踊・がんけ



秋田県西馬音内地方の盆踊りで日本三大盆踊りの一つともされています。野性的な囃子と、優雅で流れるような上方風の美しい踊りとの対照が特徴です。

一迎え火を焚く老人 現れたのは亡き妻の霊か。やがて祭りの寄せ太鼓に誘われ一

生者も亡者も共に踊るという西馬音内盆踊（二種）の内、亡者踊りの名残を留める「がんけ」歌詞にも哀感が漂い、ご先祖の精霊たちも踊ります。

二、雨乞いの踊（綴子大太鼓）



七百年の歴史を誇る秋田県北秋田の八幡祭りの日に町中に響きわたる大太鼓の音に乗せ、各地の雨乞い踊のエッセンスをアレンジしました。

四、再び西馬音内盆踊・がんけ



元は厳かに先祖を祀ったものが、やがて年に一度の祭りになり、娯楽といった側面を持ってくる、その祭りの場は、若い男女の出会いの場になっていたでしょう。幕開きとはやや趣が異なる「西馬音内盆踊・がんけ」をご覧ください。

三、郡上節春駒



岐阜県郡上八幡で毎年夏に開催される「郡上おどり」、十種ある踊りの中の一つです。「駒」とは馬のことで、江戸時代に馬の一大産地であった郡上にふさわしい、馬を御する踊りです。

五、相川音頭



「佐渡おけさ」と双璧をなす相川音頭は新潟県佐渡の民謡。佐渡に流された敗残の武士たちが顔を隠して昔を語り唄い出したとも言われています。編み笠を深く被った小粋な姿で現地の振りを織り込みながら源平の戦いの模様を表現してゆきます。

六、秋田大黒舞



大黒舞は中世から近世にかけて行われた門付け芸の一つです。大黒様がその家の繁盛を予祝して打ち出の小槌を振りながら、「若大黒が舞い込んだ、舞い込んだ」と歌い踊る、何とも目出度く楽しい「秋田大黒舞」。

七、ひえつき節



九州、宮崎地方の山間部に伝わる、ヒエをつく時に唄われる民謡で、特にその節回しの美しさは格別です。黛節子が新しい感覚で構成したメロディーと踊りは、昭和二十七年 度芸術祭文部大臣奨励賞を受賞しました。

八、田植踊り



広島県には、日本の田植え・田楽系の伝統芸能が現代までいくつか伝えられており、毎年田植えの時期には、太鼓や笛に合わせて「田植え歌」を歌いながら早乙女らが田植えを行う「花田植」、「囃し田」が執り行われます。田の神「サンバイ」を祭って五穀豊穡を祈り、一本一本の苗に豊年の願いを込めて一心に田植えをする、早乙女達の踊りです。

九、麦屋節



富山県五箇山地方に古くから伝わる民謡。平家の武士が戦に負けて農民となり、その働く様子が踊りとして現地に残されているとも言われています。随所に農耕作業の振りや麦を踏む仕草などが盛り込まれています。

十、未来への架け橋

一急速に進む情報化の波に翻弄される人々、自分のことしか見えない、もしかしたら自分自身さえも見えなくなっているのではないかという不安な現代、そして今一

人と人との繋がり、故郷に対する情、日本人が伝え続けてきた素朴な心を未来へ紡いでいきたい、そんな願いを、「西馬音内盆踊」のもう一つの踊り「音頭」に託して。



8月 秋田県 西馬音内盆踊り

6月から西馬音内出身、西馬音内盆踊りを楽しむ西音会 主宰の西野郁子先生よりご指導を賜り、8月16、17、18日の3日間、地本の皆さんの輪に加わり西馬音内盆踊りを体験してきました。8月16日（初日）は雨天の為、体育館の中での盆踊り。17、18日は、晴天に恵まれ情緒溢れる本町通りにて踊りました。



西野郁子先生指導の稽古風景



体育館での西馬音内盆踊り



初日、踊り終えて記念写真



本町通りにて

令和元年度 参加公演記録

令和2年2月28日(金)～29日(土)

Yプロジェクトプロデュース / アルファエンタテインメント提携公演

「相馬野馬追 恋の道行」 会場：渋谷区総合文化センター大和田伝承ホール



劇中 田植え舞



劇中 放下師役とて

令和2年度 黛民族舞踊団公演予定 (令和2年6月現在)

【自主公演】

12月4日(土)・5日(日) 黛スタジオ公演 開催予定

詳細：企画検討中

舞踊団員募集のお知らせ

現在 15 名の舞踊団員で活動を行っております。

このたび、黛民族舞踊の継承と発展をはかるため新団員を募集します。日本の伝統舞踊の創造に興味と関心のあるお方は、まずは稽古見学・体験レッスンから参加してみてください。稽古を重ね、技を磨き、仲間と共に舞台へ立ってみませんか。応募お待ちしております。

詳しくは、当事務局までお問い合わせ下さい。

稽古場：黛アート・サロン(地下鉄 赤坂見附駅 徒歩2分)

稽古日時：毎週月曜日 18:30 から 21:00

お問合せ先：黛民族舞踊文化財団事務局

TEL 03-3583-3633 / FAX 03-3583-3639

E-mail info@mayuzumi.or.jp

home page





令和2年2月27日 相馬野馬追 恋の道行公演にて

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団のあらまし

当財団は、わが国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された団体です。

財団設立後は、(1) 民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡回公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2) 後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創作活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3) 日本各地および東南アジア諸国の民俗芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し（将来は資料館を設置して一般の利用に供することを計画しています）また、(4) 世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これらの舞踊団との交流や、東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5) 民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的を御理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げます次第です。

つきましては、当財団には下記の通り賛助会員規程を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます次第です。

黛民族舞踊文化財団賛助会員規程

一、 賛助会員とは、この法人の趣旨目的に賛同して入会くださった個人・法人（団体）の方々の名称です。

二、 会費寄付の内容は下記の通りです（但し、年間会費として扱わせていただきます。）

- | | | |
|----------|------------|-------|
| ア、 個人の場合 | 個人会員 | 五千元以上 |
| | 特別個人会員 | 十万元以上 |
| イ、 法人の場合 | 法人（団体）会員 | 十万元以上 |
| | 特別法人（団体）会員 | 百万元以上 |

三、 賛助会員の特典

ア、 特別会員（個人・法人）

- 1 年一回以上公演全の切符御一名様御招待
- 2 「財団の宴」など種々の行事に御招待

イ、 会員（個人・法人）

- 1 年一回以上公演全の切符御一名様御招待

なお、御入会くださいます方は、賛助会員会費寄付申込書に御記入の上、御返送いただきたく存じます。賛助会員会費寄付申込書は、当財団宛てに、御請求くださいませ。領収書は、銀行にお振り込み下さいました後、お送り申し上げます。

【令和元年度 賛助会員（五十順敬称略）】

牛尾克己 大野 剛 奥山章雄 加戸守行 楠 定憲 沢田祐二 田中英機 星野 紘 水落 潔

民族舞踊文化 No.32 令和2年(2020)6月12日発行 発行人 田中英機 編集 黛民族舞踊文化財団事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂3丁目10番3号 黛ビル4階 MAYUZUMI BLD 4F,3-10-3,AKASAKA,MINATOKU,TOKYO

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団 THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

TEL 03-3583-3633 FAX 03-35833639 ホームページ <http://www.mayuzumi.or.jp>